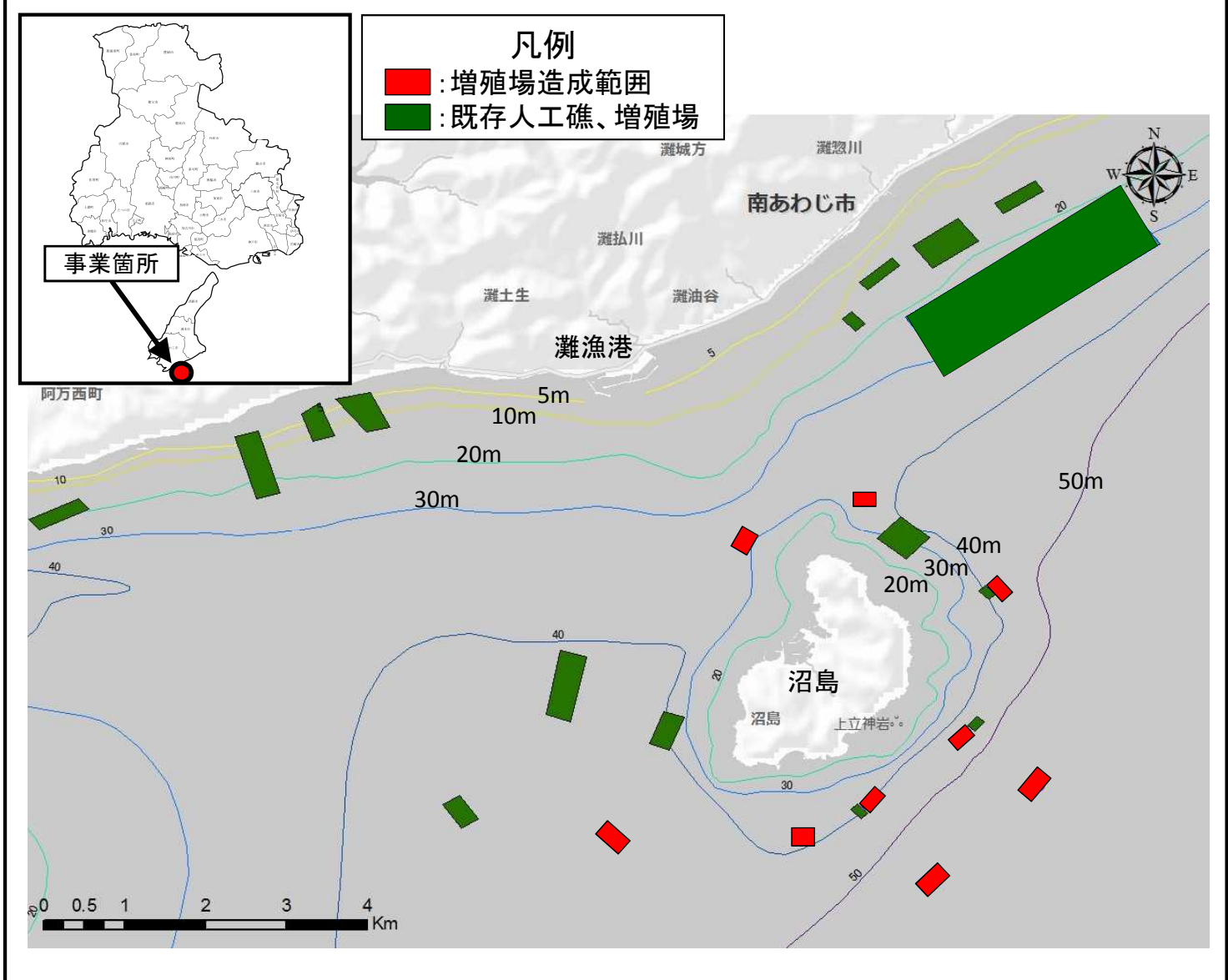


増殖場造成事業 紀伊水道地区沼島漁場

位置図

事業概要



①事業概要：増殖場造成
9工区合計 約28ha
(自然石、鋼製構造物、コンクリート構造物)

②所在地：南あわじ市沼島地先

③事業期間：H31～H39

④総事業費：6.1億円

⑤事業効果：対象魚種の資源増大による生産量の増大

⑥対象魚種：マダイ、マアジ、メバル、カサゴ等

マダイ

マアジ

メバル

カサゴ

工程	H31	H32	～	H39	備考
深浅測量					必要に応じて実施
環境生物調査					
増殖場造成					

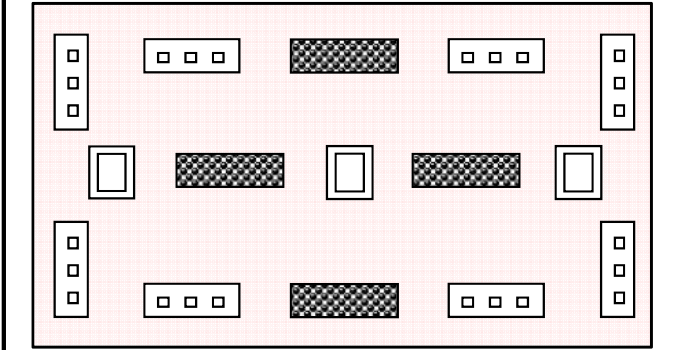
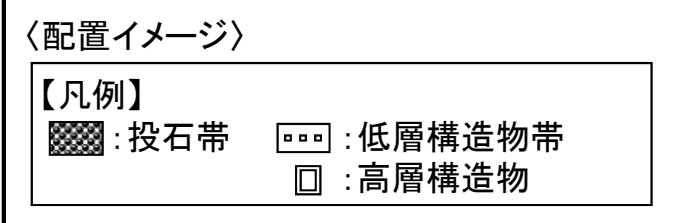
事業の必要性

- ① 当地区は、水産生物の生息場所として重要な藻場や岩場が点在するとともに、回遊魚が滞留する海域であり、マダイの越冬場や特産品の瀬付きマアジ(キアジ)の生息場となっているが、漁獲に適した天然礁や魚類の隠れ場が不足している。
- ② 本事業では、既存人工礁・天然礁を相互につなぎ、マダイをはじめとする岩礁性魚類の保護育成を図るとともに、マアジの滞留を促すために背の高い構造物を設置することにより、水産資源と漁業生産を増大させることを目的としている。
- ③ 豊かな海の再生と、漁獲量向上による浜の活性化に向け、当該事業が必要である。

	現況	計画
漁獲量	1,303トン	1,349トン
漁獲金額	931百万円	987百万円

造成手法

- ① 水深30～50mの深場に造成(魚類の保護・育成)
- ② 投石(自然石)と高さの異なる構造物を組み合わせ設置
- ③ 高さの異なる複雑な磯を造成し、魚類の保護育成及び回遊魚の滞留を図る



期待される効果

- ① 幼稚魚～親魚の育成・保護による資源の増大

構造物に集まるマダイ稚魚 投石に集まるメバル稚魚 投石上のカサゴ
- ② 既存人工礁・天然礁との相互連携による生産性の向上

相互連携のイメージ 高層構造物に滞留するアジ類 マダイの回遊経路

【凡例】

 - 主産卵場
 - 稚魚濃密分布域
 - 主越冬場
 - ← 越冬場への移動経路
 - ← 産卵場への移動経路